

9 年前(1993年)の「マニフィカト」上演

大村 恵美子

1993 年 12 月 11 日、ゆうぼうと簡易保険ホールでの、第 74 回定期演奏会は、画期的な催しでした。最近、「マニフィカト」演奏をこの 12 月に控えて、前回のプログラムを参考にし、いろいろ準備をしているところですが、今からかえりみると、この 9 年前の演奏は、その年の 8 月に第 3 回ドイツ公演を終えて、団員数もふえたまま、従来の石橋メモリアルホールでは、とても聴衆を収容しきれないとみて、1000 人収容のゆうぼうとに、会場を移したのです。出演団員数 78 名 + E M コーラスのメンバー 8 名(マニフィカトのみの参加)。

受難曲などの大曲で、1 回の定期演奏会が 2 時間、3 時間を越えるという場合も、とくに創立 10 周年、20 周年とかと区切りをつける記念公演などでは何回かありましたが、この年は、前年に創立 30 周年を祝った翌年にあたる、通常の年で、そのプログラムにマニフィカト(40 分) カンタータ第 63 番(30 分) 第 10 番(23 分) 計 93 分と、大規模な選曲をしたのも旺盛です。ちなみに、今年の次回、第 92 回定演では、カンタータ第 61 番(20 分)とマニフィカトとで、正味 60 分のプログラム。5 月に口短調ミサ曲で力演したあとで、時間的には無理のないものにしてあります。

ところで、9 年前の演奏会に関しては、もうひとつ、杉山好氏によるすばらしいプログラム解説があげられます。杉山先生からは、お願いするたびに、懇切丁寧な解説をいただき、いつも演奏会直前までかかって、分量も予定を大幅に超過するので、その点では苦労しましたが、こうやって何年もたった後にじっくり拝読すると、どれだけ先生が心血と愛情を注いで、1 曲 1 曲を世に紹介されていたかがわかり、あらためて頭が下がるのです。

ここでは、「マニフィカト」に今年また新たに臨んでいる現在の私たちのためにも、そのまま有益である解説の箇所を、ほんの部分的にはありますが、ぜひ再録させていただこうと思います。

当時の演奏そのものについては、最近出版した『東京バツ八合唱団 40 年の記録』のなかで、藤田玲子様が、「五反田<ゆうぼうと>で、初めて東京バツ八合唱団の演奏を聴き、心が熱くなったのを、今でもはっきり覚えております」(p.32)と書かれ、すぐに後援会に入会してくださったことで、想像していただけたかと思えます。

杉山好氏のプログラム解説から

楽曲解説としては異例なことに、この時の杉山先生は、「はじめに」というところから、書き起こしてくださいました。

はじめに

.....こうした戦後の歴史の中で、バツ八音楽が奏でる超時代的で全人類的な福音のメッセージへの傾倒ひとすじに、この日本の社会に文化的市民運動として定着することを目指して、東京バツ八合唱団が 30 年以上にわたってそのたゆまぬ活動を続けて、定期演奏会だけでもじつに 74 回を数えるに至ったことは、まことに多とすべき事柄であって、慶賀にたえません。また日本だけでなく、海外公演を 3 回も、ほとんど自己負担で行なわれたこと。とくに今回(8 月 8~22 日)は、別世界に二分されていた東西ドイツの統合という困難な課題に喘ぎながら立向かっているドイツの人たちに、わが東京バツ八合唱団がバツ八音楽のすばらしさを逆輸出する形で分かち合えたことは、たんなる親善友好を越えて、新しく生まれるドイツの魂のふるさとがいづくに求めらるべきかを、かの地の人々に改めて思いかえすよすがともなったに相違ないと推察して、よい種まきの仕事を立派に果たして来られた国際音楽使節としての東京バツ八合唱団に対しても、心からの敬意と祝意を表したいと思えます。

そして、この演奏会の内容について、私たちの選曲の意図にも大いに賛同しておられます。

明確な記録としては、このカンタータ(第 63 番)は、バツ八が後に 1723 年、ライプツィヒのトーマス・カントルとして就任した最初のクリスマス、12 月 25 日に、午前と午後の 2 回上演されたことが知られています。まずニコライ教会の午前の主要礼拝で、午後はトーマス教会の晩課礼拝で。そのあと同じトーマス教会の晩課礼拝の中で《マニフィカト》変ホ長調 BWV243a が(合唱挿入曲を含んだ形で)初演されたとのことですから(H.-J.シュルツェ)ライプツィヒで最初のクリスマスを迎えたバツ八の記念すべきプログラムが、東京バツ八合唱団第 74 回定期演奏会で、270 年目に再現される

というわけです。

ちょうど「マニフィカト」に関する聖書の紹介も、まとめられていますので、引用させていただきます。

老若2人の母親の対面

.....3月25日が天使ガブリエルによる受胎告知の記念日、7月2日がマリヤのエリサベツ訪問の日ときめられています。バツハはライブツィヒに赴任した翌年、1724年の7月2日にこのカンタータ(第10番)を初演しました。テキストとなっているルカ福音書というのは、コントラストとバランスの感覚にすぐれていて、ここに出て来るマリヤとエリサベツという2人の女性についても、マリヤは全く無名の人物で、夫となるヨセフはダビデ王の末裔ということになっており、それに対して、洗礼者ヨハネを身ごもっているエリサベツは、祭司アロンの名門家系で、夫のザカリヤは、アビヤの組の祭司となっています。既婚のエリサベツが不妊のまま老いたのに、天使がザカリヤに現れて、男児を授かることを告げ、名をヨハネとするようにと言う。若い未婚のマリヤが天使ガブリエルから告げられる同様の場面では、「わたしは主のはしためです。お言葉どおりこの身に成りますように」(ルカ1:38)と従順な態度で受けたのに対し、エリサベツの夫のほうは、自分と妻の年齢を理由に天使の告知を信じなかったために、失語症にされてしまいます。ザカリヤの口が開けて神をほめたたえるのは、男の子が生まれ、人々が父の名をついでザカリヤと名づけようとした時、「書字板を持ってこさせて、それに『その名はヨハネ』と書いた」(ルカ1:63)瞬間でした。そしてかれは、聖霊に満たされて、「ザカリヤの預言的讃歌」(ルカ1:68~79)を歌い出すのです。

ルカ福音書の「マリヤのほめうた」

.....ルカ福音書の冒頭部分には、ルカ独自の誕生記事の中に3つの歌(Cantica)が出てまいります。

1. マリヤの讃歌 1:46~55

マリヤが山里にあるザカリヤの家を訪問、ザカリヤの妻エリサベツの祝福に答えて歌った。

2. ザカリヤの歌 1:68~79

失語中のザカリヤは、妻エリサベツの生んだ男児を、神との約束にしたがって「ヨハネ」と名づけるよう指示した時に、口が開けて神をほめ讃えた。

3. シメオンの歌 2:29~32

信仰深い老人シメオンは、主の遣わされる救い主に会うまで死ぬことはない聖霊の示しを受けていた。幼な子イエスが両親に連れられてエルサレムの宮に入って来た時、シメオンはイエスを腕に抱いて神をほめ讃えて唱った。

マリヤを「未婚の母」の問題を身に負う女性、ザカリヤを身体障害者、シメオンを人生の幕切れ近い老人の代表として見ると、ここにはそれぞれの立場で困難の中にある人間が、決定的な出会いに引き出されて神をほめ讃える姿が描かれていると言えます。.....

無名にひとしい女性マリヤを通して始められたできごと(御子の受肉)への応答が、父・子・聖霊の神を讃えるエクレシアの歌の出発点となり、どれほど壮大な人類救済史の展望がくり広げられていくことが、世紀末の混迷と不安を根底からつき破る徹底した光明のひとすじ道の消息が、この《マニフィカト》の中に秘められているのではないのでしょうか。

プログラム(ちらし)のカット絵

1993年の「マニフィカト」の時のプログラムには、あまりにも有名な受胎告知の図柄として、フラ・アンジェリコの絵(フィレンツェ、聖マルコ修道院、1445年)を用いました。表紙の色も、きれいなピンク地にグリーン、赤、ベージュ等の色彩豊かな暖色を配したものでした。天使ガブリエルがひざまづき、両手を組み合わせて恭順を示しながら腰かけているマリヤは、思いつめた面持ちで、天使のお告げに上体を乗りだして聴き入る。これ以上に清純な「マニフィカト」の絵はないほどです。

さて、今年の場合は、少し変わった見地から、天の声を、地にある者が聴き取る、というどこか厳しく現代的な図柄を探してみようと思っていました。ちょうど東京で開かれたカンディンスキー展を観に行ったとき、無関係と言え無関係なのですが、「クーボラ」と題したこの絵に出会ったのです(第92回定演チラシ参照)。そして、手前の2人の人物は、何を表わしているのかわからず、老若や性別もはっきりとは判らないが、ふとあのフラ・アンジェリコの受胎告知図に共通するものを感じました。画面の左下から右上にかけて対角線上に切り裂く赤い城壁は、まるで天上と地界との厳然たる境をなしているようであり、そこを乗り越えて、地界に降り立った、冒しがたい権威を体現したような人物、その前で打ちひしがれたように身を丸める人物。現代の私たちが、神の福音を授かることがあるとしたら、こんな具合いなのではないだろうか。そんな思いから、今回は、一足飛びに、ルネサンスの宗教画からカンディンスキー(1866-1944)の幻想へと、転じてみたのです。いつもながら鋭く卓越した長谷川徹氏のデザイン(1993年も)によって、原色のカンディンスキーから、明かるく、クリスマス待望の演奏会にふさわしい色彩のちらしとプログラム表紙が生まれました。(最近数年のプログラムは、残念ながら簡易印刷のため単色です。)



フラ・アンジェリコ「受胎告知」1445年、フィレンツェ聖マルコ修道院



カンディンスキー「クーボラ」1909年、アストラハン州立美術館蔵

旧約聖書学ゼミからの報告（番外）2002・6・14

レバノンの<杉>

塩野 靖男

4月下旬レバノンへ行ってきましたので、定例のゼミを小さな報告会にさせていただきます。

レバノンの国土

レバノンは地中海の東に面する細長い国土をもつ国です。日本の県程度の大きさで（岐阜県と同じぐらい）、緯度はほぼ西日本に相当。南は国境を挟んでイスラエル、北と東はシリアに国境を接する。その国土に2本の山脈が海岸線方向すなわち南北に並行に走る。西側がレバノン山脈（北部ほど高く最高峰サウダ山 3088m）、東側はアンチレバノン山脈（一番南がヘルモン山、2814m。ヨルダン川の最源流。古くはシリオンと呼ばれた（申命 3:9、4:48）。この山脈の東はシリア砂漠に繋がる。2つの山脈に挟まれたベカー高原は水に恵まれた穀倉地帯、隠れた桃源郷である（ヨシュ 11:3,7）。その理由は冬、地中海からの西風がもたらす湿潤な大気がこの2つの山脈にぶつかって深く雪を載せるからである。これらの山には夏でも雪の残るところがあってスキーが出来るという。まるみをおびた雄大な雪の山脈の遠望はまことに美しい。

旧約聖書が描くレバノン

エレミヤはこの雪解け水の冷たさを知っていた（18:14）。エゼキエルは水に潤うレバノンの美しさをエデンの木になぞらえる（31:15,16）。ホセアも麗しさをレバノンのよう、と形容する（14:6,7）。ゼカリヤはイスラエルの回復をレバノンに行かせるという表象で預言する（10:10）。雅歌にはわが花嫁と歌われ（4:8,11,15）、恋人の姿をレバノンのようにたたえる（5:15）。もちろんこれらは詩的修辭であるが、聖書時代のパレスチナ住民にとってフェニキアの自然はことさら好ましく映ったのであろう。この願望は土地占拠の伝承などの中に巧みに織り込まれた。申命記（1:7、3:25、4:48、11:25）、ヨシ

ユア記（1:4、9:1、13:5,11）、歴代上 5:23 等はレバノンをも約束の土地、占拠した（すべき）土地と言ってみせる。

旧約聖書の<レバノン杉>

さてレバノン共和国の国旗は上下に赤い帯、やや広めにとられた中間の白い帯の真中に緑色の一本の木を描く。例のレバノン杉である。つまりこの木はレバノンの象徴なのである。聖書に<香柏、いと杉>（'erez, 英語 cedar）の訳語で数多く出てくる木で、神殿や宮殿の建築材（サム下 7:2、王上 5:4、6:8-10、エズ 3:7 等）、そびえ立つ高い木（イザ 2:3、王下 19:23、アモ 2:9 等）、良きうるわしさ（エレ 22:7、雅歌 5:15 等）、それゆえ亡びの厳しい預言の対象（ゼカ 11:1 等）と古くから記されている。その他、地中海を走る船の船体やその帆柱（エゼ 27:5）に、樹液（ヤニ）の防腐性なども用途とされた。紀元前 2 千年期にはすでにエジプトへと運ばれた記録があり、それ以後も周辺の歴代の王たちにとり垂涎的であった。また長い歴史の過程においてシリア、フェニキヤ、パレスチナに姿を見せた幾つもの大軍がまたこの木を消費した（ロ - マ軍も、十字軍も）。このレバノンの香柏は高地（1000m ぐらいから上の寒冷地）の地味の痩せたところに生えるため生長は遅く（平地に移植しても発育はよくないという）、そのため材の硬さ、真直ぐに伸びて大木となる性質、防腐性、香りなどのため珍重され続けた。



建築材としての<レバノン杉>

レバノン杉は松である。似た同じ高木性の針葉樹のヒマラヤ杉が円錐形樹形をつくるのに対し、大きなレバノン杉は頂きがやや平らな傘形の樹形を呈する。そうした大木を抱えるレバノン杉の森は、いまやレバノン山脈の北にわずかに小さく残るだけである。搬出し易い南の樹木は長い歴史の間、ツロヤシドンの港まで引きずり下ろされ、地中海で繋がる世界へと運び尽くされた。すぐ南隣のイスラエルへもシドンから筏に組んでヨッパの港へ運び、そこから標高 800m 近いエルサレムまで再び運び上げられた

(歴代下 2:16)。ダビデ(サム下 5:11)も、第 1 神殿を建てたソロモンなどは、ツロの王に労働力と食料さらには領土の割譲をしてまでもこの用材を確保した(列王上 5、6、7 章)。捕囚後の第 2 神殿再建にさいしても、食料と交換にツロやシドンからレバノン杉を輸入している(エズ 3:7)。これほどに木に固執するのは、この世界の建材が基本的に石であることの裏返しであろう。地中海世界は広く石灰岩の発達した地質をもつ(テチス海生成時・中生代のもの)。サンゴ質のポーラス(孔質)なもの・砂質のもの(これには中生代の海生生物の化石がよく含まれる)から十分変成を受けた大理石まで、いろいろな段階の石灰質岩石によってこの世界の大地は覆われている。石材は、どこでも容易に手に入り、比較的加工しやすい石灰岩であることと相まって、各時代の石切り技術に応じ建造物の質と大きさは決ったのである。前 14 世紀のウガリットやビブロスの古い町は、まだ石加工があまり施されていない転石を積み上げて、町の低い囲い、神殿、王宮、貴族たちの家などがつくられている。それがロ - マ時代ともなると、信じ難い大石を切り出して隙間もなく積んだり、20m 以上の高さを持つ精巧な彫刻をほどこした列柱を並べるようになる。それを受け継ぐビザンチン、イスラム、十字軍、オットマン時代と、建物についてはただただ石の世界である。筆者などは少々へきえきする。庶民の家は長い間、小石と粘土、屋根は灌木などの枝を張ったもので、聖書時代の大部分はそうであった。

イエスのフェニキア行

レバノンの海岸には北からトリポリ、ビブロス、シドン、ツロと非常に古いフェニキアの面影を残す港がつづく。商業貿易港、海軍基地、造船所、水夫の供給地などとしてこれらの港は栄枯盛衰を見てきた。フェニキア商人をつとに有名にしたひとつはシドンの緋色の衣で、希少な染料が小さな貝から採取されていたのはここである。ビブロスは最も古く、パピルス貿易の基地であったという。イエスが隠れるようにそのシドンに行ったとの記事が福音書に見られる(マル 7:24-、並行記事マタ 15:21)。イエスはそんな北まで行ってはいないだろうとの注解は根強いが、そのおり異邦人の女が娘の病氣治療をイエスに切願したという物語。異邦人蔑視の権化としてのイエスが描かれる非常に興味深い記事である。マルコにはないマタイ 15:24 の挿入句(「わたしは、イスラエルの家の失われた羊以外の者には、つかわされていない。」)を頭の中から払拭したら、この話はどう読めるか解釈を試みられたい。

石灰岩の風化土壌ラテライトを洗う雪解け水の鮮烈な赤は、アドニス神話をフェニキアの人々に生き生きと植えつけた。土壌が赤色であるのは聖書にも深く染み込んでいる。

先月号で、カンタータ第 150 番、第 5 曲にふれて話題にあがっていた聖書の<杉>について、「ちょうど友人から、こんなメールが来ていましたので」と、後援会員原田知子様から、まことにタイムリーな一文を紹介いただきました。またぐっと聖書の世界に近づけたような気がします。ありがとうございました。

バッハ・カンタータ 50 曲選

出版ニュース No.13

<カンタータ 50 曲選> CD 発行の企画

このほど、「カンタータ 50 曲選」全 5 期 50 冊の楽譜出版に並行させて、東京バッハ合唱団の定期演奏会録音から編集した CD を発行する企画が、パラビジョン(柳沢清氏)と提携して、発表されることになりました。概要は次のとおりです。

「カンタータ 50 曲選」の曲目すべてを CD 全 20 巻に収録して発行する(1 巻に 2、3 曲ずつ。45 分～75 分程度)。全巻に解説つき。

音源は 1979 年録音済みから、2006 年予定までのものにわたる。2002 年 9 月現在、録音済みが 29 曲、未録音または再録予定は 21 曲である。

楽譜出版は、第 4 期 10 曲発行が 2002 年末(一般発売は 2003 年初)、第 5 期 10 曲が 2003 年末(同 2004 年初)に発行されて完結する予定。

CD の最終録音は、2006 年 12 月(BWV192)の予定なので、その編集をまって完結となる。

以上から、CD の発行は、2003 年～2007 年の 5 年間に、年 4 巻ずつ計 20 巻とする。

CD の発売価格は、1 巻(2、3 曲)につき 2400 円(税込)を予定している。

合唱団関係者にかぎり、以下のような特価での予約受付けを開始する。

○第 1 期分(全 4 巻)を一括予約の場合:
特価 9,000 円(税込)...(9,600 円のところ)

○全 5 期分(全 20 巻)を一括予約の場合:
特価 40,000 円(税込)...(48,000 円のところ)

CD 発行にも資金が必要なので、予約は 2002 年 10 月 1 日から開始する。

予約申込先きは、東京バッハ合唱団出版局。

CD 第 1 期発行(全 4 巻)の内容

<第 2 巻> BWV8、16、19

<第 6 巻> BWV41、42

<第 8 巻> BWV61、63

<第 13 巻> BWV104、106

発行予定:2003 年 2 月から 3 月。

この 4 巻分(9 曲)は、BWV61 の会場録音(第 92 回演奏、12 月 15 日、石橋メモリアルホール)以外は、全ての録音を終えており、解説ブックレットの編集を進めています。

近々に、全容をご案内できる予定です。楽譜選集ともども、お手元にお揃いいただければ幸いです。